

2023 年度 冬号 Start Line

図書部 & 進路指導部からの進路情報を発信します。冬号は、節目を迎え、新しい一歩を踏み出す時に読んでほしい本を特集しました。苦しい時や、心が辛くなった時に、心の支えになればと思いながら、本を選びました。

『カーテンコール!』 加納朋子 著 新潮社

3 月末で閉校が決まった私立の女子大学。学園側の救済措置にもかかわらず、卒業できなかった学生たちがいました。外出、ネット、面会すべて禁止の寮生活をおくり、特別補講を受講さえすれば、卒業を認めるということになりました。彼女たちが、学校に登校できなかった理由は、摂食障害、睡眠障害など様々ですが、寮生活をする中で、自分にこれまで欠けていた何かを一人一人が見つけていきます。理事長の「優しさには人のためになる優しさ、人をダメにする優しさがあるというのを覚えておきなさい。」という言葉は、とても心に残りました。



『「福」に憑かれた男』 喜多川泰 著 サンマーク出版

色んな事に落ち込んでいる友だちに、私が出来ることはないかと考え、本を贈る事にしました。この本は、町の本屋さんが舞台のお話です。父の後を継いで、希望に胸を膨らませて本屋になったのですが、実際は大手の本屋さんに客を取られ、廃業寸前。優しい主人公をなんとか幸せにしたいと彼にとりついていったのが、福の神「秀(しゅう)神(じん)」でした。これまでに経験してきた主人公の試練はこの「福の神」が、わざと主人公に与えていたものだったのです。人は、苦しい事があると、「もうだめだ」、とか「何で私だけ」と思ってしまうがちですが、それを乗り越えることが、その人の成長に必ず繋がる事を、福の神は知っていたのです。だから、試練を乗り越えるために、福の神・秀神は人との出会いを用意します。その人は、充実した毎日を過ごし、そして肩には先輩福の神がしっかりとっている老人でした。その出会いをきっかけに、彼はすこしずつですが、これまでの考え方を变えてゆき、本当の幸せへと近づいてゆきます。大げさなことではなく、少しの変化で、環境や心の持ち方は変わってゆくことを、この本は気づかせてくれます。心が元気になって、いつも笑顔で毎日を過ごしてほしいと思ってプレゼントした本です。皆さんにもおすすめしたいです。(図書館 水野)

『ある奴隷少女に起こった出来事』

ハリエット・アン ジェイコブズ 著 大和書房

19世紀アメリカで、ある黒人の奴隷少女が自らの尊厳をかけて、戦った実話です。「悲しみ」「絶望」「恐怖」日々苦難の連続の中で、決して諦めることなく、前を向いて生きてきた先にあった人生とは、、、最初は、物語だと思われていたのですが、126 年後に実話とわかり、米国でベストセラーとなり、日本でも話題となった本です。アメリカの歴史を知るためには、とても良い本だと思います。



司書おすすめ



『やりたいことが見つからない君へ』

坪田信貴 著 小学館

『ライオンのおやつ』 小川糸 著 ポプラ社

瀬戸内海の島にあるホスピスが舞台です。この病院には、毎週日曜日、入居者がもう一度食べたい思い出のおやつをリクエストできる「おやつの時間」があります。おやつを食べながら、おやつにまつわる思い出を語るという時間です。命の終わりを意識する時、人は何を考え、行動するのか? 重いテーマの中に、温かさが感じられ、最後には涙が流れてしまいました。私が、最後に食べたいおやつは、母が面倒だと言いながら作ってくれたレモンパイです。



『ビリギャル』の坪田先生による著書です。「『やりたいことが見つからない』と悩んでいる人、それは自分の人生をよりよいものにしたいと努力している証拠。」、あとがきに書かれていた言葉です。この本は、若いみなさんにエールを送る本ですが、全世代の人にも元気を与えてくれる作品だと思います。坪田先生の夢は、「世界一強いサッカーチームを作ること」だそうです。絶対無理だろうと思われていた目標ですが、「目の前の一人を感動させていく」ことを続けていくと、吉本興業会長だった大崎さんと出会い、2022 年から社外取締役役に就任し、今ではサッカーやスタジアムの建設に関わり始めているそうです。天高生のみなさん!! あきらめて、途中でやめてしまったことをもう一度始めてみませんか?!



ここで紹介した本は、全て天高図書館にありますので、ぜひ図書館に来て、手に取ってみてください。みなさんのご来館を、お待ちしております。(図書館)